

レクチャーコンサート

現代ピアノ連弾作品の諸相

ブガッロ=ウィリアムズ・ピアノデュオ

2025年

7月6日 [日]

16:00 開演 (15:30開場)

■ 演奏曲

- C. ナンカロウ (1912-1997) (E. オニヤ編曲) :
《習作 3b, 3c, 3d, 4, 6, 15, 20》(1948-1960)
- G. クルターグ (1926-) : 《遊戯》(1973-) より
- A. ウィリアムズ (1969-) : 《影の中で》(2017)
- C.J. ヴァルター (1964-) : 《無限との戯れ》(2016)
- K. ローゼンベルガー (1971-) : 《ボーゲン》(2016)
- J. マイケルズ : 《完全なる調和とともに》(2014)

※演奏順不同。

※都合によりプログラムが変更になる場合があります。

■ 出演

ブガッロ=ウィリアムズ・ピアノデュオ
(エレーナ・ブガッロ & エイミー・ウィリアムズ)
山本裕之 (解説・愛知県立芸術大学作曲コース教授)

愛知県立芸術大学
室内楽ホール

入場無料・全席自由 (事前予約不要)

※未就学児の入場はご遠慮ください。

「ピアノ連弾」といえば、発表会でよく目にするスタイルです。小さな子供が二人で、あるいは先生と子供で楽しむ、というイメージが強いかもしれませんが。しかし**4つの手**が一つの鍵盤に向かうことは、ピアノの可能性を大きく広げる力があり、またソロから**アンサンブル**に変化することも意味します。

結成から30年、2台ピアノを駆使した活動で知られるブガッロ=ウィリアムズ・ピアノデュオは、本レクチャー・コンサートで**連弾作品だけによるプログラム**を披露し、私たち聴き手の「連弾」に対するイメージを刷新するでしょう。

演奏されるのは、彼女たちのために書かれた作品や、メンバーの一人で作曲家でもある**エイミー・ウィリアムズ**自身による作品など。中でも注目は、彼女たちのレパートリーの中心にある**コンロン・ナンカロウ**の《習作》シリーズです。もともとは人間には演奏不可能とされ、自動ピアノのために書かれたこの作品が、後世に彼女たちのために編曲され、人の手によって演奏可能になりました。その音楽は、聴きごたえのあるものです。現代のピアノ連弾作品が持つ豊かな表現と可能性——それを、**芸術として昇華させた名演**を、どうぞお楽しみください。

ブガッロ=ウィリアムズ・ピアノデュオ

1995年の結成以来、北米とヨーロッパで現代音楽の演奏を中心に活動するピアノデュオ。多くの世界初演を手がけ、またデュオのために書かれた作品も多い。ワルシャワの秋、ウィッテン現代室内楽音楽祭など、世界の主要な音楽祭への出演も多い。ピアノデュオのレパートリーを増やすという使命の一環として、特に C. ナンカロウ《自動ピアノのための習作》のトランスクリプション・プロジェクトに取り組み、ナンカロウのピアノ二重奏曲とソロピアノのための録音が2004年に Wergo からリリースされ、高い評価を得た。その他、E. オニヤ、M. フェルドマン、E. ヴァレーズ、A. ヒナステラ、G. クルターク、B. パルトーク、I. ストラヴィンスキー等の録音も行っている。



©hejke liss



お問合せ 愛知県立芸術大学 芸術情報・広報課

☎0561-76-2873 (受付時間 平日 9:00 ~ 17:30)

〒480-1194 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 1-114

アクセス

◆名古屋方面から

市営地下鉄東山線終点「藤が丘」駅下車
東部丘陵線(リニモ)に乗り換え「芸大通」駅下車
徒歩約10分

◆豊田・瀬戸方面から

愛知環状鉄道「八草」駅下車
東部丘陵線(リニモ)に乗り換え「芸大通」駅下車
徒歩約10分

※駐車場の数に限りがありますので、公共交通機関のご利用にご協力ください。